(2)平安時代

会津に仏教文化が広がる

大同2年(807)に僧の徳一(とくいつ)が慧日寺(えにちじ)を創建し、平安時代の会津に仏教文化が花開く端緒となった。

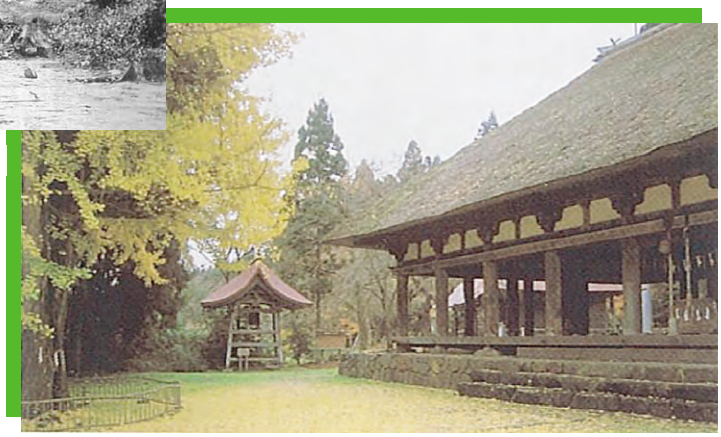
慶徳にある千光寺経塚(せんこうじきょうづか)は、東北最古の経塚であり、経を入れる石櫃の銘によれば、大治5年(1130)、平孝家・源俊邦といった有力者層により造営された。

熊野神社が勧請される

熊野信仰とは、紀伊半島南部にある熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社の三山に対する信仰であり、当初は上皇や皇族など上流の信仰であったが、やがて身分の差もなく老若男女の信仰も許され庶民へと広がっていった。会津では天喜年間(1053～58)に上三宮町岩沢の熊野神社(本宮(ほんぐう))、慶徳町新宮の熊野神社(新宮(しんぐう))、熱塩加納町宇津野の熊野神社(那智(なち))が勧請(かんじょう)されたと伝えられ、喜多方は、会津における熊野信仰の中心となった。

慶徳にある新宮熊野神社の拝殿は長床で、平安時代末期の貴族の住宅で用いられた寝殿造りの様式と伝えられている。長床とは山伏の道場のことであり、昭和38年には国の重要文化財に指定されている。

新宮熊野神社長床(修理前)



新宮の熊野神社拝殿(長床)

(資料:図説喜多方の歴史)